



皆さんこんにちは。私は、熊野古道の語り部をさせていただいています。主としてツツラト峠を案内してありますが、ここに観光バスで来られる方は熊野古道が初めての方も多く見えます。その初めての方の中には、隣の人から誘われて単なるバス旅行と思われ参加した方もいるため、登りてびつくり、下りてびつくりやつと下に着いてからバスまで遠い。二度と熊野古道には「来たくない」と言う事にならぬよう、ゆつくり歩く。休憩時間は短くても回数多くめに。説明する時も一旦休憩し



熊野古道からの
のがみ

熊野古道からの
のがみ
49 通目

次は紀北町の
金子修さん



三宅一成さん
(松阪市)
熊野古道語り部友の会
宮川流域案内人の会 副会長

て少し休んでから説明をして出発するなど、とにかく山登りは大変だとは思わせない、私でも山に行けるのだと思わせ、途中には色々な遺産があり、山頂に雄大な景色があり、他の峠にも行つて見ようと思わせるような案内を心がけています。



花尻薫からの季節のたより No.49

冬になって赤く熟し食べられるフイチゴは、暖地の林の中に生育する、つる性の植物です。花の時期は7月から11月頃まで、白花を5個から10個つけ、冬に熟するから冬苺・寒苺と称します。

フイチゴとヘビイチゴ

イチゴの種類は世界中で三百種類から三千種類とも言われ、熱帯から寒帯まで、そして低地から高地まで分布しています。



フイチゴ

鹿児島島の「こしき島」では、果物のない冬の実としてオヤコウコウイチゴと称しています。

野生のイチゴの仲間は多くて、苗代をつくる頃熟するナワシロイチゴ、葉がモミジのように切れこんでいるモミジイチゴなどがあります。フイチゴの果実は甘く

て、汁が多いので、一番好まれています。かつては山で遊ぶ子どものおやつであったと言われています。

ヘビイチゴの仲間にはヘビイチゴとヤブイチゴの2種類有り、どちらも実がなりますが、甘みもなくおいしくありません。ヤブイチゴとヘビイチゴは中国においては蛇苺(ショウメイ)と呼ぶらしいですが蛇が食べるイチゴという意味らしいです。

ヘビイチゴは人家の近くの道ばたや、山の林の入り口にあり果実の直径は1cmから2cm、全体に光沢があるようです。5月から6月頃見られるようです。又、本州の中部方面と屋久島にはシロバナイチゴと言う種類があり、食用になると記されています。

センター敷地内「夢古道おわせ」

お母ちゃんのランチバイキング
尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」
深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、通し後もポカポカです。

お風呂ががらり、カフェでゆったり♪
お風呂ががらり、カフェでゆったり♪
お風呂ががらり、カフェでゆったり♪



●お車で越しの方は...
尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルピオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分)※尾鷲南ICからは約8分

●電車で越しの方は...
JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター」下車
尾鷲駅
→南紀特急バス「熊野古道センター」終点下車(約2時間)

熊野古道センターからのてがみ

●発行日:2018年12月11日(季刊)
●編集・発行:三重県立熊野古道センター(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史文化ネットワーク)
●編集担当:玉村
●連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
TEL 0597-25-2666
FAX 0597-25-2667
Mail info@kumanokodocenter.com

●開館時間:午前9時～午後5時
●入場料:無料
●休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター 検索
ホームページ
http://www.kumanokodocenter.com/
60000181211AT

熊野古道 伊勢路 通行止め一部解除のお知らせ
熊野古道伊勢路「横垣峠道」の一部(横垣峠(石碑)～坂ノ峠区間)は通行が解除となりました。
●詳しくは御前町教育委員会 TEL.05979-3-0526までお問合せください。



三重県立熊野古道センターからのてがみ

"The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center"

2018.冬号

通号 No.49

日曜わくわくものづくり体験教室

「ものづくり」は、「もの」をつくることで、①形あるものを作り出す。目的をもったものを作り出す。②人間生活に有用なものを作り出す。③人間生活の秩序に合わせる。この3つの内容をもつものといわれています。

それでは、「もの」を手づくりすることには、どんな意味があるのでしょうか。昔は、ないから作る、いろいろな寸法のものがあるから作る、あるいは高く買えないから作る。つまり、自分で作らざるを得ませんでした。自分の手で何かをつくることは、作る過程の困難さの克服や改良を加える、工夫を凝らしてきた時のよろこびを味わうことでしょうか。ものづくりを体験することによって、身につくものがたくさんあります。これは見たり聞いたり、あるいは読んだりすることよりもはるかに大きく、人の心に深く刻まれるものです。自分で裁断、研磨し組み立てて作ったものが、持たせたい機能を発揮できているか、美的にも耐えられるかが問題です。それゆえに、うまく作り上げた時のよろこびは、たとえようもないくらい気持ちになるものです。

自ら工作することは、自分の意思や構想が反映され、とても楽しいことです。もっとも、これはうまくいった場合であ

り、最初からうまくいくものではないのです。デザイン力や工作技術、それに伴う頭の働きや根気、工夫あるいは探求心、好奇心など自分自身の興味や能力向上の刺激にとってもよいプロセスが「ものづくり」といえます。

熊野古道センターでは毎週日曜、「日曜わくわくものづくり体験教室」を開催しています。講師は、地域で活動する様々な分野の作り手で、ものづくりの楽しさを知ることができる体験教室として人気があります。例えば、木工体験では日本農業遺産に登録されたことでも知られる「尾鷲ヒノキ」を材料として用いるなど、この地域の特産を来場者に知っていただく場にもなっています。

工作する過程の経験と結果から、次なる創作意欲が高まり、やる気、根気が芽生えます。「日曜わくわくものづくり体験教室」は、毎週日曜の午後1時～午後3時まで開催しており、事前申し込み不要で小さな子どもから大人まで気軽に楽しんでいただけます。あなただけの、この世界にひとつしかない「もの」を作りませんか。お待ちしております。



